旅と文化

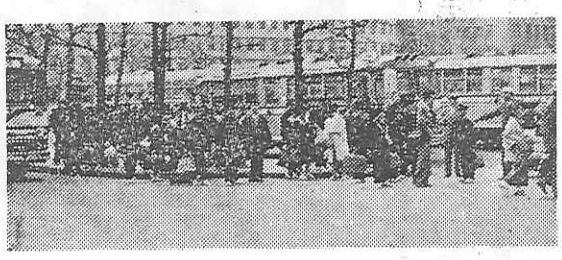
発行所
東京都千代田区
神田神保町　2～30
財団法人全国
修学旅行研究協会
電(301)0531・2429
編集・発行人
永井　照

第2面には
高校生の語る
修学旅行の
「座談会」の
特集記事を
掲載

秋の修学旅行

駈足で東京見学

コース設定に再考慮



東京見学を終えた修旅生徒
（東京駅丸ノ内口にて）

東京都内の昨今は毎日全国各地から約一万人前後の児童生徒が修学旅行におしよせて、各見学地の駐車場には大型バスが並び、バスガイドに引率された児童生徒で賑わつている。

浅草公園では浅草寺横の駐車場から降りた生徒は、横門から本堂に参詣すると仲見世を見物して直ぐ駐車場の方へ引返している。いわゆる駈足見学である。上野公園では科学博物館、西郷さんの銅像、動物園などで児童や生徒の姿を多く見られる。皇居前は都内見学の学校が必ず訪れるので、雨の日でも見学者の姿が絶えない。児童や生徒に人気があり喜ばれるのは羽田の国際空港、東京タワー、交通博物館で、いずれも首都東京でなければ見学できたい規模と特長をもつている。ただ神田の交通博物館には駐車場の設備がないので甚だ不便である。九段の靖国神社にも下車参拝する児童生徒の姿が多く見られる。

近頃の東京見学は歩くことが非常にすくなくなり、殆んどがバスを利用し、短時間に広範囲の見学を行うようになつている。

中学校は一泊、高校は二泊が多くバス見学も八時間コースが大部分であるが、中には四時間コースで都内を重点的にまわつた後、博物館や東京タワーなどでゆつくり見学する学校もある。

最近の東京は自動車の激増のため道路の交通に非常に時間がかかるようになり、修学旅行の見学コースの設定に問題を投げかけている。

京都市の修学旅行一案 ③

東京都立桜町高等学校教諭　小沼常治

4、清水寺に車を走らせる

清水寺の解説はどのガイド嬢もするので（多少解説のオーバーのような点もあるが）ここでは桃山時代から五条坂、粟田あたりに京焼きが起り、茶の湯が隆盛になるにつれ、今日のような優雅な工芸品としてすぐれた技術の伝統をほこる（五条坂より少しのぼつた清水三寧坂あたりが）清水焼の本場である。原料陶土は滋賀県（信楽）、熊本県（天草島）から移入して、すべて手工業として製られている。

製造工程を見学する場合は、伏見区深草正覚町にある京都市立工芸指導所に行き、あつ旋を依頼すると、陶磁器の分析試験、技術指導、などについてよく教えてくれる。つぎは

5、博物館　十二時までに着き十三時まで昼食、休憩をとると運転手も休憩できるので、その間、長い歴史をもつ（五〇〇年）博物館見学は前に見学する。ロダンの「考える人」など沢山資料があるので研究資料として見学しておく。東山七条博物館三十三間堂付近、三十三間堂の見学は時間の都合で一〇〇一体の仏像はあとで学校でまとめたい。一時出発車中で京都南部に多いまねきん人形づくりの話をしてやるとよろこぶ。

6、買物センターへ車を走らせる

途中五条通りの近代道路を見させ、考えさせる。

昔は四条に行くといえば、京都の中心の代名詞であつたが、今は四条三条間の河原通りが中心となり、現在は四条河原の交差点が交通量最大となり、東京の銀座、大阪の心斉橋に相当する。ではなぜここ新京極が京都の繁華街の中心になつたかを考えさせたい。（つづく）

きとりには十分注意と要領を指導すべきは論をまたない。大衆的な扇子、高級品など生徒は知らないことを知つたようこび、おどろきで、輝かしい眼なざしで、よろこびいさんで収獲の大であつたことをほこらしげに帰つてくると思う。整理

京都も生徒の波

本年度は無事故で

秋の旅行シーズンを迎え、一般観光客と共に修学旅行の児童生徒の姿が各地にみられる。京都も東京と同様に毎日一万人位の児童生徒が来ているが、東京と異つて自動車の増加がさほどでないので、交通の解説は日本史で説明しておいて、個人で見学することも考えられる。（五条坂から南へ少しいつた所）の道路わきに扇子の竹の骨が一面にほしてある。全国生産の六〇%にあたる七三〇万本といわれる量が全部家族労働を主とする典型的家内工業で造られていることをしつかりと生徒の眼で見、聞きとりをさせたい。聞

京都駅から東、西本願寺を経て、三十三間堂、清水寺、平安神宮、金閣、銀閣、御所を巡り三条辺の宿舎に向う学校が多い。その他郊外の見学地は市内見学の終了後に行つている。高校では中学校の時に見学している社寺を除いたコースを設定する学校もある。

本年度は春秋を通じて大きな食中毒も火災や遭難の事故も起らずまずまず無事な修学旅行シーズンであつた。

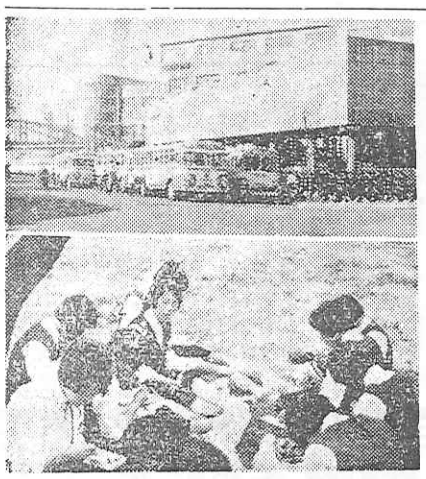
多くの史跡や社寺を持つ京都市は

東京見学

二つの問題点

雨天の昼食とバスの交通難

関西方面から来る生徒は東京駅、東北、北陸方面から来る生徒は上野駅に夫々下車し、バスに乗替えて都内見学に向う学校が多い。その外直接バスで都内に乗り入れる学校が最近多くなつて、国鉄利用のみでは生徒数の把握は困難である。現在の都内見学で問題になつている点が二つある。第一は休憩昼食場のすくないこと。第二は自動車の数が多くなりその上新道路交通法の実施によつて見学コース



（上）駐車場のない交通博物館（神田）
（下）晴天では野外で楽しく弁当が開けるが

の所要時間が長くなつたことである。

第一の休憩、昼食場の問題は、今までもその数のすくないことや設備上の点で都内見学上の難点になつていた。近年修学旅行生徒数の増加はこれにますます拍車をかけている。特に雨天の昼食場の設備は、神田の交通博物館（二〇〇名収容但し月曜は休館）浅草のあづま屋（三〇〇名収容）芝の東京タワー（千名収容）羽田の国際空港（五〇〇名収容）の程度であつて、シーズン中毎日一万人の生徒を収容するには到底不足する有様である。これが解決策としては、現在の設備を拡張するか、他に二、三ケ所を新設するほかはあるまい。

第二の自動車の増加や新道路交通法の実施などによるバスの停車時間が長くなつたりコースの変更などで、最近の都内見学の時間が従来よりも余分にかかる問題は、東京の発展のために起るものであり且つ法的に規定されたものであるから、見学コースの再検討によつてこれを解決するよりほかはあるまい。いずれにしても、現在の東京見学におけるこの二つの難点は早急に解決すべき問題であるので、学校教育委員会、東京都、各業者などこれに関係する各方面の代表者が集つて話し合いを行う必要があろう。

修学旅行地としての大和路

奈良縣教育委員会
指導主事　亀岡作雄

古くからわが国政治の中心となつた大和の国は、古い歴史をもつ社寺をはじめ、名勝旧跡が到る所に存在し、それが美しい自然と融け合つて「観光大和」「観光奈良」の名は内外に喧伝され、わが国屈指の観光地、修学旅行地として、年々多数の観光客、旅行生を送迎している。

以下大和路を訪れる修学旅行生に、是非見てほしい所、見学のポイント等について若干記してみたい。

大和の観光地は、その特色によつて地域的に、北部の奈良盆地と南部の吉野山地の二区に分けることができるが、修学旅行生の多く訪れるのは前者の方である。

盆地の広さは僅か三百平方粁に過ぎないが、到る所にそれぞれ特色をもつた観光地が分布している。それらのうち是非見学してほしいのは、公園を中心とした奈良市、薬師寺、唐招提寺をもつ西の京、法隆寺で知られた斑鳩の里、南部の橿原、飛鳥路である。

今までは主に奈良と西の京、斑鳩地方に限られていたが、最近飛鳥路に足をのばす学校が多くなつてきたのは喜ばしいことである。

先づ奈良市の見学についてのべよう。主要見学地としては奈良公園（浅茅ケ原、雪消の沢、飛火野、猿沢池、鹿、若草山等）・興福寺（南円堂・五重の塔）・東大寺（南大門・大仏殿と大仏・戒壇院・二月堂、大仏大鐘・開山堂等）正倉院・春日大社（本殿・廻廊・万葉植物園等）国立奈良博物館等がある。

奈良市の見学を終えてバスを西に走らせると、平城宮跡を経て西の京に至る。ここにはゆく秋の大和の国の薬師寺の

塔の上なるひとひらの雲　佐々木信綱

で知られる薬師寺（金堂・東院堂等）と、

青薬して御目の雫ぬぐはばや　芭蕉

の句碑がある唐招提寺（金堂・講堂・礼堂堂）があり

西の京の西南斑鳩の里には法隆寺（南大門・中門・金堂・大講堂・五重の塔・夢殿等）と、中宮寺が

冬の山低きところや法隆寺　虚子

の句にみるごとく、松の緑濃き山裾に雄渾な姿を見せている。

盆地の南部には大和三山（天の香具山・耳成山・畝傍山）が鼎立し、畝傍山の麓には橿原神宮、神武陵、大和歴史館等があり、天の香久山と畝傍山の間を流れる飛鳥川のほとりは、日本文化の故郷で、藤原宮跡とそれに伴う数々の史跡が多い。

見学のポイントとして望みたいのは、是非若草山に登つて盆地を大観してほしいことである。眼下にそびゆる大仏殿や五重の塔の雄大さ、平城京の面影をはつきりと示す一条、三条等の大路の名残り、盆地の特色をなす多くの溜池、遥か南方に望まれる大和之山、青垣山の西をなす生駒、金剛の傾動地塊、東をなす大和高原の地襞など正に一幅の絵であり生きた社会科教室を一望のうちに収めることができる。

なお、前述の各観光地をバスや列車でたづねる途次、車窓に展開する特有な大和棟の家々をまじえた条里式集落や、特色豊かな環濠集落の分布等にみられる古い文化と、集約的な栽培景等によつて代表される新しい文化との融合した農村の姿などみのがすことなくよく観察してほしい。

与えられた紙数が尽きたのでこの辺でペンをおく。

機関車「早く修旅専用列車を作つて
もらわないと、……」

原　いさむ

修学旅行のご用命に‥

実績が証明する
技術とサービス！

営業所　全国に　120ケ所

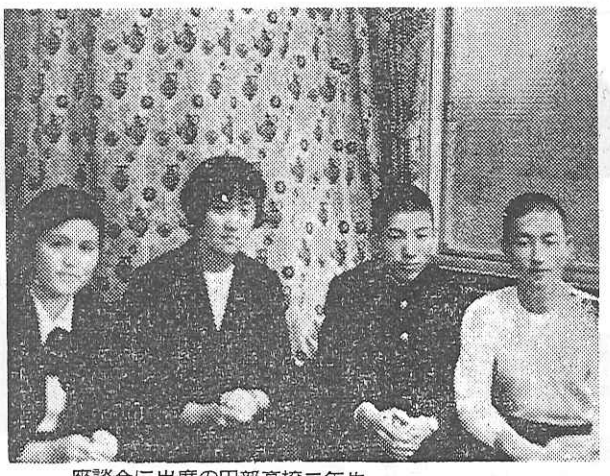
近畿日本ツーリスト

本社　東京都千代田区丸ノ内1の1　国際観光会館内TEL(231)4131

高校生の語る修旅の感想

ほしい親切な案内
時間の無駄と不愉快が多い

秋の修学旅行で東京および鎌倉、江ノ島、箱根などの見学に上京した山口県立田部高等学校（引率者鈴木英教頭）二年男女百三十一名は去る十月二十六、七日秋雨の東京都内を見学したが、同校の引率教師および生徒代表の皆さんにお集りを願い、宿舎のスルガ台ホテル応接室で東京見学の座談会を開催した。



座談会に出席の田部高校二年生（右より江木・梶山・吉村・平野）の皆さん

夜行列車は寒い
タワー空港は出口が不明

司会　上京の列車は一般と混集でしたか。

鈴木　下関付近の高校が連合して専用団体列車で来ましたので座席が確保されておりその点は楽でした。

江木　米原あたりが夜中になり寒くて困りました。

鈴木　スチームが前の五両辺までしか通らないので後の方に乗っていた私共の生徒は寒さにふるえたと思います。今後はこのような点について国鉄当局の配慮をお願いしたいですね。

司会　東京見学での感想は。

梶山　道路の工事中が多くその上自動車が多いので、バスの停車時間が非常に長く見学の時間が予定より余計にかかりました。

吉村　バスガイドの説明が下手でよくわかりませんでした。

平野　バスが通り過ぎたあとでガイドの説明があったりして、私共初めて見学する者にはサツパリわかりませんでした。

江木　運転手がガイドに説明の合図をしていたようです。上手なガイドさんを乗せてほしかつた。

梶山　東京タワーで一人づつ入場券を配るのは時間の無駄です。国体入場券で早く昇れるようにしてほしいと思います。

平野　タワーや空港では出口がわからないで困りました。

吉村　浅草で食事をしたが店員の態度が事務的で不親切だつた。

江木　見学地でバスの入口の所で絵ハガキや土産物を押しつけるように売るのは全くいやな感じだつた。

実地より美しいスライド

司会　旅行前にコースの研究をしましたか。

梶山　化学や社会科の先生がスライドなどで事前の指導があり、自分達でも案を作つたりして見学地の事は大体知つていました。

吉村　スライドの方が実際よりも美しいと思いました。

江木　神宮外苑の森の広いのには意外でした。

平野　上野公園はあまりにきたなくてガツカリしました。

司会　こんどの旅行で困つたことや嫌なことはありませんか。

江木　ホテルのマイクがよく聞えないので連絡が不充分でした。

吉村　三越の出口がわからないので困つたが、店員は知らん顔をしていました。

梶山　食事の飯の量は充分でしたが副食がつくだ煮などのインスタントが多く、もつと親切に工夫してほしいと思いました。

司会　引率教師としての感想を。

鈴木　山口県の高校は百時間という規定ですが広島県は五泊六日になつています。これでは東京見学の場合はどうしても日程に制約を受けて十分な旅行が出来ないわけです。将来広島県と合同して専用列車を編成する場合にも困りますのでこの点は十分にこれから研究する必要があると思つています。なお、高校の場合は生徒の自由行動の時間を重視していますので、見学時間を要点のみに短縮して実施してみました。

司会　ではこの辺で。

出席者（敬称略）

山口県立田部会等学校
教頭　鈴木　英
同　二年生　江木　芳成
同　二年生　梶山　博
同　二年生　吉村トキヱ
同　二年生　平野きぬ代
全国修学旅行研究協会
調研部長（司会）　山本　実

上高地、乗鞍を訪ねて

東京都練馬区立開進第四中学校長　**松本和三郎**

私はこの夏はじめて上高地から乗鞍を訪れることができた。上高地の旅行はすでに五年も前に望んでいたのであるが、予定された日に台風が来合せたり、台風後の道路破壊で上高地への交通が閉ざされたりして遂に今日までその目的を果すことができなかつたのである。

八月十六日の夜行で新宿をたつて、十七日早朝松本駅に着く。貸切バスで浅間温泉から上高地に向つた。梓川に沿つて登る道々も興趣の多い眺めであり、時に胆を冷すような所も少なくない。

大正の初期、焼岳の泥流によつて堰止められて作られた大正池は、絵葉書などで紹介されたような特有の美しさは残しているが、年毎に池は狭められていくようであり、やがて梓川の流路だけに水をたたえるような運命をたどることであろう。自然の力で生れたこの山中の美景を保存するには流れ口にダムを作つて人工を加える以外にはない。

五千尺旅館のあたりから望む穂高の姿は格別である。雪渓も白く点々と数ケ所仰がれ、これ等の高山に源を持つ梓川の水の冷さも成程と思われる。私たちの訪れたのは、すでに山の人出の盛りを過ぎた頃であつたが、それでも色とりの服装をした男女が往き来して、山の静けさは殆んど感じられず、山の銀座の感が深い。山の施設も完備して上高地を訪れる人の多くなるのは結構なことであるが、このために山の自然が破壊され、神秘性が害なわれるようなことになつては誠にもつたいないことである。

この日は信濃と美濃の国ざかい、安房峠を越えて平湯温泉に落ちつく。この温泉もその昔はこの近くの人たちの湯治の場所であり、或いはリユツクを背負つたアルピニストの憩いの地であつたであろうが、上高地や、乗鞍岳が観光的色彩を帯びるにつれて時代の脚光を浴び、年毎に繁昌していくようである。

翌十八日平湯をバスで出発して乗鞍岳に向う日本の屋根、北アルプスの中でも高山の仲間に入るこの山にバスで登山できるのだからまことに驚いたことである。登るにつれて樹種の変化する姿は興味一入深い。はい松の間には雷鳥も住むとのことであるが、残念ながら私どもの眼にとめることはできなかつた。

鶴ケ池のほとりに車を止める。ここは標高二千八百米ばかりの位置である。三千九一一米の頂上を目指して徒歩でいく。駐車場と頂上との差は約三百米だが往復するのには二時間半程を要する。登る人の中には小学生位の小さい子供もいるし、和服姿の御婦人も見うけられる。バスの通り以前には屈強の人たちにしか縁のなかつた高峯が、御婦人の下駄で踏みならされるとあつては、登山というより行楽化してしまつて、乗鞍自身喜んでいるのか、悲しんでいるのか、恐らく今昔の変化に戸惑つているのではないかと余分な憶測もしてみたくなる

待望の上高地、乗鞍を訪れて、よい旅行ができたという喜びと、これらの聖地がいつまでも荒されず、自然の姿を止めて訪れる人たちの心を浄化してくれることを心から希うのであつた。

好評の研修旅行
来夏の計画進む
十二月には各学校に配布

本年の研修旅行も第五回記念にふさわしく盛大に、意義深く終つたので、協会では次回（三十七年夏期実施）の企画を入念にすすめている。

毎年企画をたてるときには過去の経過に充分な検討と反省を加えて完璧を期してはいるものの、部分的にはまだまだ満足出来ない点があるのはいなめない。

協会では今年こそはと最良のコースをと懸命の努力を払つている。本年は北海道、九州について一層充実した旅行を計画したほか、各地方毎に行なう旅行については特に意義深い見学地を選定した新コースを提供致したいと考えている。

十二月には各コースについての要項も定まり各学校に印刷物でその詳細をおしらせする予定である。

協会だより

★理事長の退院

過労のため入院中（大阪府池田市回生病院）の協会理事長山木種一氏は、病状の経過が非常に順調に回復し病気も快癒しましたので去る十月二十五日無事退院しました。その間関係の皆さんから多数の御見舞を頂き厚く御礼を申し上げます。

★役員、支部長の活躍

協会常務理事永井事務局長、常務理事村山助雄氏、同仲沢俊次郎氏、理事高田治郎氏、同宍戸一郎氏をはじめ各県支部長、名古屋事務局長宮木秀吉氏、大阪事務局長村田態蔵氏、協会事務局次長中原末弘氏の外事務局員一同は、東北、関東、東海、近畿、九州の各修旅委員会をはじめ、近鉄ビスタカー、修旅専用船、などのため東奔西走の活躍を続けています。

★原稿募集

各学校の遠足、修学旅行の記事や論説、旅の随筆などの原稿を編集部までお送り下さい。

環境と近代設備を誇る
修学団体旅行のオアシス

宿泊料金
中学生　350円（2食）　1000名様の収容力
高校生　450円（〃）　新切、丁寧、清純
一般　600円以上（〃）　なサービス
来年度のご予約はお早くお申込みを

東京青年文化会館
東京都渋谷区千駄ヶ谷4の25　電話 東京（401）5111～5（千駄ヶ谷駅 代々木駅）徒歩3分

教職員の研修旅行
夏休みには　快適な専用列車で
北道海か　九州へ！
（特色）　各縣教委　教組　教育団体の後援。教育的モデルコース。個人旅行に比べて極めて低廉な費用。その他医師の添乗等周到な用意。
詳細は近く各学校へお知らせします。
企画　財団法人　全国修学旅行研究協会

これなしで　現代の地理教育は　語れない
図説　日本文化地理大系
〔巻数及び刊行予定〕全18巻・隔月刊行
〔体裁〕B5大判・本文8ポイント二段組及び9ポイント二段組併用・平均384ページ・函入上製本・各巻に原色版24ページ・グラビア32ページ・多色刷大判地図2～4枚・大型写真500～600枚収載　特漉アート紙使用・総クロス
〔定価〕各巻払 1,500円・全18巻一時払25,500円（1冊分割引）
姉妹篇　図説日本文化史大系　全14巻　東京・神田　小学館

LIHIT LAB.